

海水浴

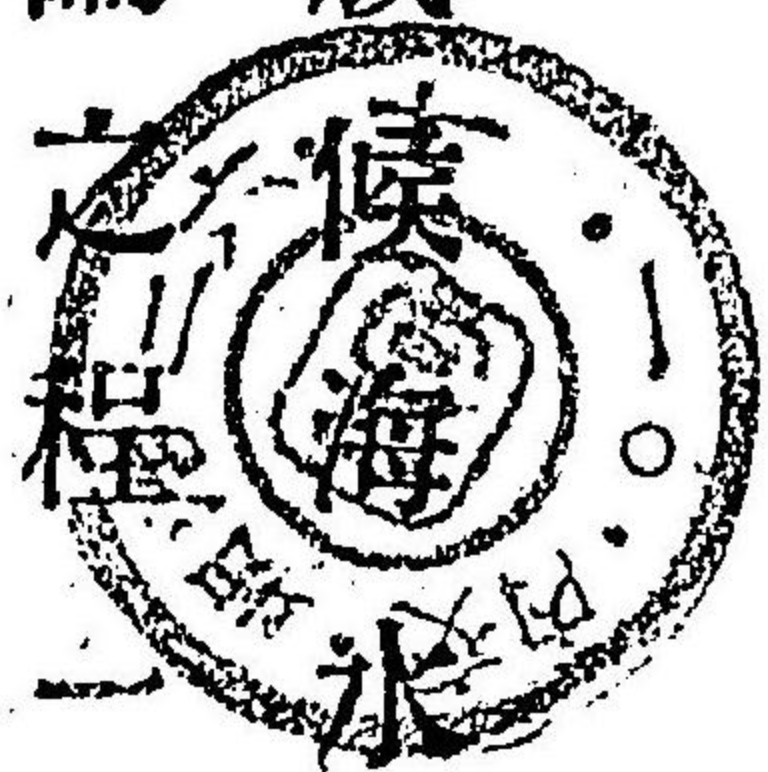
醫學士匹田復次郎君關

完

待

特65
925

謹啓豫而御依囑相成
浴説再三熟讀御卓論
々感佩仕候若し是を世に公
にせらるゝに於ては大に世
人をして其有益を感せしむ
る良好の御著作歟と被存候
委曲ハ御面會之上可申上先



Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are difficult to decipher due to fading and low contrast.

者右迄得御意候草々不具

十九日

匹田復次郎

天野雨石殿

本論は予が嘗て嚴島海水浴場改良の希望
を有志諸士に告げし草案なるが今度印刷
に付して同好の士に頒つこと、なしぬ然
れども所謂書は言を盡さず言は意を盡さ
ず一場の談話草案何んぞ詳悉すること
得ん況んや予が如き不才淺識なる一書生
に於て或や其所説謬見亦甚多からむ諸君
幸に一讀の榮を賜ひ訂正裨補を加へらる
れば予に於て過分と云

明治廿六年初夏

天野雨石識

海水浴目次

緒言

海水浴ノ起原

海水及海氣ノ性質

(甲)海水ノ性質

(乙)海氣ノ性質

海氣呼吸及海水浴ノ効能

(甲)海氣呼吸ノ効能

(乙)海水浴ノ効能(附)波動ノ効能

海水浴ノ應用

(甲)冷浴

一

四

全

五

七

全

九

十一

全

丁

丁

丁

丁

丁

丁

丁

丁

丁

(乙)温浴

海瀨院

(甲)海瀨院

(乙)海瀨院職員

(丙)飲食物

(丁)運動場及散鬱ノ要件

浴場之撰擇

(甲)位置

(乙)浴場

海水浴法及其時期

(甲)浴期

全丁

十二丁

全丁

十三丁

十四丁

十五丁

十五丁

十六丁

全丁

十七丁

十八丁

(乙)浴法

(丙)海氣呼吸結論

結論

十九丁

二十丁

二十一丁

海水浴

天野雨石述

緒言

我廣島縣下ニハ礦泉ノ湧出スル處ガ甚ダ少ナイ偶々
アリマスモノハ其含有スル固形分又ハ氣類等ガ甚ダ
僅微ノ量デ御座リマシテ其溫度ノ如キモ皆甚ダ低キ
タ大抵攝氏ノ廿五度以下ノモノノミデアリマスカラ
其儘デ入浴シ得ラル、モノハ絶ヘテ御座リマセヌ如
此土地柄デスカラ本縣人ハ礦泉ニ對スル感シガ甚ダ
冷淡デ其効能ヲ知ル人モ亦尠ナイ様ニ思ハレマス特

リ礦泉ノミナラズ夏日海水浴ヲ爲ス人モ亦尠ナク從
テ完全ナル海水浴場モ起リマセヌハ誠ニ遺憾ノ事ト
存ジマス

故ニ私ハ今海水浴ノ方法并ニ其効能等ヲ演ベマシテ
海水浴ヲ勸誘シ且完全ナル浴場ノ起ランコトヲ促シ
マスハ全ク無用ナル事トハ考ヘマセヌ依テ茲ニ其大
概ヲ演ベ試ミマセウト存ジマス

海水浴ノ起原

サテ海水浴ノ起原ヲ尋子テ見マスニ其初メヨリ其目
的ハ今日ト異ナルコトナク海水及海氣ヲ應用シテ虛
弱ノ體質、腺病質、重病後ノ恢復期、其他諸般ノ慢性

病ヲ療養セントスル目的デアリマシテ今明治廿六年
ヲ距ルコト百九十三年前（我朝ノ東山天皇元祿十三
年）即西曆一千七百年英吉利國テームス河口ノマイ
ゲイトト云フ地ニ設ケマシタ海水浴場ガ蓋シ權輿デ
御座リマス其後數十年間ノ經驗ニヨリテ其効ノ顯著
ナル事ガ愈々世ニ知ラレマイゲトト海水浴場ガ完全
ナル海濱院トナリマシタハ九十六年ノ後デ御座リマ
シテ即西曆一千七百九十六年（光格天皇寛政八年）デ
御座リマスソレカラ英國ニ於テ海水浴場ノ數ガ増加
シマシタハ勿論デ御座リマスガ次デ完全ナル海瀨院
ヲ設ケマシタハ伊太利國デアリマス同國デアハ西曆一

千八百四十二年即今ヲ距ルコト五十一年前（仁孝天皇天保十三年）同國ノウキア、レツシヨ一ニ大海瀕院ヲ設立シテ海水ニ浴シ海氣ヲ呼吸スレハ腺病及佝僂病ニ特效アルコトヲ世ニ公告シマシタソレカラ同國內デモ段々其數ガ増シマシタガ嘗ニ同國斗リデナク佛蘭西、魯西亞、和蘭、合衆國等ヲ始メトシ海濱ノ國ハ大概其設ノナイ國ハ少ナイ程ニナリマシタ又獨逸デハ西曆一千七百九十四年（光格天皇寛政六年）メクレンブルク州ノ沿岸ナルドユブランニ始メテ浴場ヲ設ケマシタガ尙一千七百九十七年ニハ北海ノ一小島ナルノルデルナイ島ニモ設ケマシタ併シ其頃ニ

設立シマシタモノハ未ダ完全ノ備ヘアルモノデハ御座リマセヌデシタ然ルニ其後八十三年ヲ經テ西曆一千八百八十年（我明治十三年）マールブルクノ博士ベ子ツケ氏が伯林ノ醫會ニ於テ始メテ完備セル海瀕院設立ノ必要ナル事ヲ論ジ該會員ノ賛成ヲ得マシテ遂ニコレヲ設立スルコトヲ計畫シマシタ其翌年即西曆一千八百八十一年獨逸海瀕院協會ナルモノガ起リマシテ其會員及有志者ヨリ釀金シテ漸次事業ニ着手スル事ニナリマシタガ時ノ皇太子殿下モ深ク其舉ヲ稱賛セラレ模範トナルベキ一大海瀕院ヲ設立セヨトノ思召ヲ以テ金二十四万馬克ヲ下賜セラレソレヨリシテ

遂ニ彼ノ帝室ノ所屬ナル北海ノノルデルナイ島ヲ
始トシヒヨール島東海ニテハグロース、ミーンツ及
ツオポートニ之ヲ設ケマシタガ中ニモノルデルナイ
島海瀨院ハ實ニ完全セルモノニテ眞ニ摸範海瀨院ト
云フベキデス同院ハ壯大ナル二層若クハ三層造リナ
ル十二棟ノ建物ニ三百八十餘ノ床蓐ヲ備ヘテ居マス
又職員ハ院長看護婦長監事書記機械師浴師料理長説
教師裁縫婦長洗濯婦長各一名醫員四名看護婦十八名
其他火夫賄方裁縫手洗濯人料理人下婢小使雜役夫等
各若干人ヲ使ツテ居マス又床蓐ノ内其二百四十八專
ラ家計裕カナヲザル者ノ小兒ニシテ虛弱又ハ疾病ア

ルモノヲ治療スル爲メニ供ヘテ御座リマスノデ其他
ハ普通人ノ療養ニ供スル爲メデアリマス右ハ外國ニ
於テノ濫觴并ニ海瀨院ノアリサマノ一例ヲ演ヘマシ
タノデスガ我日本ニ於テハ何レノ頃ヨリ始マリマシ
タカ確カトハ存シマセヌ今ヨリ凡貳百三十年斗リ前
ノ人ニテ筑前ノ藩士ニ貝原益軒ト申ス學者ガ御座リ
マシタガ其人ノ書キマシタ書中ニ

海水ヲ汲ミテ浴スルナラバ井水或ハ河水ヲ等分ニ
合ス可シ然ラザレバ熱チ生ズ云々

ト御座リマス是ニヨリテ考ヘマスレバ其時代ニハ純
粹ノ海水ノミテ浴スル事ハ未ダナカリシ事ト見ヘマ

ス併シ海水ガ人体ニ一種ノ作用チナスモノナルコト
ハ早ク己ニ知レテアリマシタモノト思ハレマス然
ルニ其後其利害如何ヲ研究セシ人ノアルカナシカ悉
シクハ知ルコトガ出来マセヌガ西洋ノ風ヲ學ビテ先
ツ海瀨院ヲ設ケマシタハ明治二十年八月神奈川縣下
大磯ニ於テ建設シマシタ大磯海瀨院ガ我國デノ創始
デアルト思ヒマスソレカラ所々方々ニ設ケマシテ今
ハ我廣島縣下ニモ海水ヲ浴セシムル爲メノ場所ガ一
ニアリマス然レドモ是等ハ皆完全ノ準備ガ御座リマ
セヌ餘程改良ヲ要スル事デ御座リマス

海水及海氣ノ性質

近來海水浴ハ漸ク盛ンニナリ行ク様ニ思ハレマスガ
眞ニ其性質効能并ニ入浴ノ方法ヲ知リテ入浴スル人
ハ未ダ少ナイ海水浴ハ當ニ夏日ノ炎威ヲ避ケ徒ラニ
長日ヲ消スルヲ以テ目的トスル位ノモノデハ御座リ
マセヌ

(甲)海水ノ性質、海水ハ醫療上ノ目的ヲ以テ由シマ
スレバ一種ノ礦泉乃チ鹽類泉ト看做スベキモノデ御
座リマシテ凡ソ海水百分中ニハ三分乃至三分半ノ固
形分ヲ含クンデ居ルノガ通例デアリマスソウシテ其
主成分ハ格魯兒那篤留謨(食鹽)デアリマスガ又格魯
兒加留謨、格魯兒麻偲涅失亞、硫酸石灰(石羔)硫酸麻

偏溼失亞(瀉利鹽)沃度及鉄等ヲモ含有シテ居マス併
シ種々ノ外ヨリ來レル關係ニヨリテ或ハ多少ノ異動
アル場合モアリマセウガ今數回ノ試験ニヨリテ海水
千分中ヨリ得マシタル成績ハ

食鹽	二五、五三四
格魯兒加留謨	〇、〇〇八
格魯兒麻偏溼失亞	一、八六四
硫酸麻偏溼失亞	二、九七九
硫酸石灰	一、三六七
沃度(抱合物)	微
臭素(全)	同

珪酸	同
安母尼亞	同
硼酸	同
酸化鉄	同

稍多量ノ有機體變性物ナル安母尼亞ヲ含有スル

コトガアリマス

又夏季ハ特ニ食鹽ヲ含ムコト多キガ通例デ御座リ

マス

(乙)海氣ノ性質、海氣トハ海上ノ大氣デ御座リマス
而シテ其海上ノ大氣ヲ大陸ノ大氣ニ較ベテ如何ナル
違ガアルカト申シマスニ

(一)濃密、海上ノ大氣ト雖モ其酸素窒素ノ混合歩合ハ素ヨリ陸氣ト異ナルコトハアリマセヌガ其濃淡ニ至リテハ之ヲ山間大陸ノ空氣ニ比較シテ見マスレバ海氣ノ方ハ甚ダ濃密デ御座リマス故ニ同容積ノ海氣ト山氣トニ就テ測定シマスレバ海氣ハ濃密ナルガ故ニ其中ニ含有スル酸素ノ量が多ク御座リマス故ニ海濱ニテ呼吸致シマスルトキハ其肺中ニ引ク處ノ酸素自カラ多量ヲ收ムル譯デ御座リマス

(二)清潔、海上ノ大氣ハ之ヲ陸氣ニ較ベマスレバ大ニ清潔ニシテ彼ノ瘴氣及他ノ有害ノ瓦斯類又ハ

浮游セル有機物バクテリアヤ塵埃等ハ殆ンド混ジテ居リマセヌ又炭酸ヲ含有スルコトモ甚ダ少量デ多ク含ンデ居升時デモ陸氣ノ含メル半量ニ過ギマセヌ又海氣ハ阿巽ニ富ミ之レガ爲メニ防腐清淨ノ力ヲ有シテ居マスカラ海氣ヲ呼吸スレバ空氣ヨリ害ヲ受クルノ虞ハ御座リマセヌ

(三)濕潤、數度ノ試験ニヨリマスルニ海上ノ大氣ハ陸氣ニ較フレバ餘程濕潤デスベ子ツケ氏ニヨリマスレバ殆ンド一倍半ノ水蒸氣ヲ含ミテ居且海氣ハ其中ニ食鹽分子ノ痕跡ヲ浮游シ及鹽酸瓦斯ノ痕跡ヲ混ジテ居マストノコトデス又或化學家

ノ説ニハ臭素及沃度ノ痕跡ヲモ含存スルト申サ
レマシタ

(四) 温度ノ均一、海上ノ空氣ハ晝夜共其温度が大抵
均一デ御座リマシテ陸氣ノ如ク晝熱夜冷又ハ時
々ニ急變シ或ハ晚風俄カニ膚ヲ刺スガ如キ患ガ
御座リマセヌ故ニ健康ヲ保ツニ至テ宜シク御座
リマス

海氣呼吸及海水浴ノ効能

(甲) 海氣呼吸ノ効能、海氣ヲ呼吸スルニヨリテ得ル
處ノ効能ハ如何ナルモノナリヤト申シマスニベ子ッ
ケ氏ニヨルトキハ海氣ノ感得ハ人体ノ酸化作用ヲ催

進シ其新陳代謝ヲ盛ナラシメ生活機能ヲ興起シ食機
ヲ興奮シ尿素ノ分泌ヲ増シ尿酸磷酸ノ分泌ヲ減シ体
重ヲ増加スト申シマシタ故ニ腺病性ノ兒童若クハ胃
及腸ノ慢性加苔兒貧血諸症等ノ人ハ此海氣ヲ利用シ
テ體質ノ強壯ヲ斗ルガ肝要デス

一寸ト此處デ付演致シ置キマスルガ今申シマシ
タ腺病トハ如何ナルモノカト申シマスニ肺病又ハ
梅毒ニ罹リタルモノ又ハ虛弱若クハ酒客等ノ父母
ヨリ遺傳シ或ハ生後滋養ノ不足ニヨリテ起リマス
ル病デ一寸私共ノ様ナ素人ガ見マシタ處デハ只少
シク虛弱ナル體質ノ様ニ斗リ見ハマスガ能ク

吟味シマスルト此腺病ハ實ニ恐ルベキモノデ幼稚
ノ時ハ腦膜炎(驚風)稍成長シテハ或ハ癩瘰トナリ
或ハ肺病トナリ終ニ不治ノ大患ニ陥リ鬼籍ニ上ル
モノデアルトノ事デ御座リマス凡テ腺病質ノ人ノ
身体ハ甚ダ軟弱デ御座リマス仮令其一人ハ幸ニシ
テ夭折ノ災ヲ免カレマスモ腺病ノ素因ハ兒孫ニ遺
傳シテ甚シキハ遂ニ一族軟弱ニシテ不愉快ナル生
活場裏ニ畢生ヲ遂クルノ不幸ニ陷キルモノデ御座
リマスカラ注意シテ速カニ其豫防ヲ計畫セ子ハナ
ラヌ事デ御座リマス此腺病ニ即海氣呼吸及海水浴
ガ至極宜シイト申ス事デアリマスカラ序デニ申シ

テ置キマスノデ御座リマス

併シ如何ニ海氣療法ガ宜シイト申シテモ病ノ性質ト
其輕重トニヨリテハ概論ス可ラザルモノ、御座リマ
スルハ素ヨリデス乃チ上ニ申シタ腺病デモ稍重症ニ
至リテハ固ヨリ醫師ノ指圖ニ從ハナクテハナリマセ
ヌ

(乙)海水浴ノ効能、又海水浴ハ吾人ノ身ニトリテ如
何ナル効能ガアルカト申シマスニベ子ツケ氏ノ生理
的試験ニヨリマスルトキハ海水ニ浴シマスレハ海水
ハ其合メル所ノ鹽分ガ冷水ノ冷ト共ニ浴客ノ皮膚ヲ
刺戟致シマスニヨリテ種々作用ヲ作スモノデ御座リ

マス即チ

- (一) 皮膚ノ蒸發力ヲ増ス
 - (二) 皮膚ノ知覺神經ヲ衝動刺戟シテ血液ノ運行ヲ盛
ナラシム
 - (三) 食機ノ運営及組織ノ新陳代謝作用ヲ催進ス
 - (四) 尿中尿素ノ分泌ヲ増シ尿酸鹽磷酸鹽ノ分泌ヲ減ズ
 - (五) 皮膚粘膜ヲ強壯ニシテ外感ノ習僻ヲ脱却ス
 - (六) 体重ヲ増加ス
- 等ノ機能が御座リマス

又茲ニ一ツノ重要ナル事項が御座リマス是ハ海水ニ
浴スルニ際シ副二的ニ來ル處ノモノデ御座リマスル
が療養上與カリテ大ナル功力アルモノガ御座リマス
カラ茲ニ申シ演ベマスが即チ彼ノ波動ノ搏撃ノ事デ
御座リマス

海水ニ浴シマスルニハ海中ニ於テ波動ノ搏撃ヲ受ク
ル事が誠ニ必要デ御座リマス波動搏撃ノ壓力ニ抵抗
致シマス筋肉ノ運動努力ハ即チ所謂波按摩デ御座リ
マシテ海水浴ニ於テノ自然ノ体操ト申シテ宜シク御
座リマス而シテ此波動搏撃ハ如何ナル作用ヲ爲スカト
申シマスニ末梢部ノ神經ヲ興奮セシムルノ力が強ク

御座リマシテ夫レヨリシテ全神経系ニ衝動ヲ與ヘ神
經機能ヲ旺盛ナラシムルモノデ御座リマス

皮膚弛縦ニ原因スル病及神經衰弱ニ原因スル病等ガ
海水ニ浴シテ數々偉効ヲ奏スル事ノ御座リマスルハ
全ク此波動ノ作用ニ由ルモノト存ジマス

但シ衰弱甚シキ人ハ直チニ強キ波動ニ接シテハナ
リマセヌ何トナレバ其神経系ヲ衝動スル事ガ強劇
ニ過グルトキハ之レガ爲メニ眩暈等ヲ發スル事ガ
御座リマス

以上演ベマシタルガ如ク海水浴ニハ海氣呼吸ト波動
ノ搏撃ト申ス事ガ必要デ御座リマスカラ温浴ニヨラ

除キナクテハナヲヌ患者ヲ除クノ外ハ可成海中ニテ
海水ト海氣ト波動ノ作用ヲ受ケナクテハ其効ガナイ
坊間儘見ル處ノ彼ノ海ノ潮ヲ陸地ニ酌ミ來リテ熱開
汚陋ノ巷ニ於テ之ニ入浴セシムルガ如キハ其効能ハ
甚ダ薄イコト、考ヘマス

海水浴ノ應用

海水浴ハ之ヲ冷浴ト温浴トノ二法ニ分チマス

(甲)冷浴、冷浴ノ適スル諸症ハ

(一)滋養不給ニ原因スル諸病

腺病(輕症ノ腺病、腺病性子宮粘液漏、腔粘液漏)
佝僂病、除キ病性貧血腺症、腺病性萎黃病、等

(二) 神經衰弱ニ原因スル諸病

胃腸ノ弛慢(神經衰弱ニ因ル)全身或ハ局部ノ筋衰弱、筋委症ノ初起、筋麻痺ノ或種類、神經系ノ感觸過敏、歇私的里等

(三) 皮膚弛縱ニ原因スル諸病

雙麻質斯、皮膚過敏、感冒ノ習癖、筋強直、粘膜殊ニ呼吸器ノ慢性加苔兒、扁桃腺腫張症等

ニ適スルモノデ御座リマス心臟病、重症結核病、脚氣或ハ極メテ脆弱ナル體質ノ人ニハ海水冷浴ハ宜シクアリマセヌ利益ナクシテ却テ害ヲ醸スモノデアリマス(乙)温浴、温浴ハ温カナル鹽類泉ト見倣スベキモ

ノデアリマシテ冷ニ浴堪ヘサル患者ニ應用シマス又人ノ性質ニヨリマシテハ冷浴ヲ行フノ前先ツ温浴ヲ取り漸ク微温浴トナシ後チ海ニ入りテ冷浴ニ就クベキモノモ御座リマス温浴ノ適スル諸症ハ

(一) 體質脆弱ナル人及腺病質ノ小兒

(二) 虛弱ナル歇私的里性ノ婦人

(三) 短氣ニ苦シム人(温浴ヨリ始メテ漸ク冷温ニ移ルベキモノ)

等デ御座リマス

海瀕院

(甲)海瀨院、海水ニ浴シ海浴ヲ呼吸シテ疾病ヲ療養セント欲シマスル時ハ海瀨院ノ設立ガ必要デ御座リマス

海瀨院ノ事ハ前ニモ少シク申上ケマシタガ彼ノ獨乙ノルデルナイ島ニ設ケマシタルモノ、如ク洋中ノ孤島ニシテ而カモ航海ノ便チ缺ガナイ地デ空氣海潮共ニ清潔ニシテ北方ニ丘阜又ハ山ヲ背ヒ北風ヲ防セグベキ海濱ニ於テ海水浴場ニ接シ海水浴ヲ取ルベキ患者ヲ止宿セシムベキ結構完備ノ家屋ヲ以テ海瀨院トナスベキデ御座リマスサテ其家屋ノ建築構造方床蓐其他裝飾ノ事ニ至ルマデ此處ニ演ベマスガ順序デ御

マスレモ今ハ一々辨ジマセヌ是ハ病院ト同様ナモノジヤト御承知下サレバソレニテ宜シク御座リマス

(乙)海瀨院職員、海瀨院ハ患者ヲ入院セシムル所デ御座リマスカラ是ニハ院長醫員看護人、浴師、(海水浴場ニ於テ浴客ヲ看護シ)事務員、賄方、衣衾洗濯人小使等ノ備ヘテ要シマス不完全ナル海水浴場ニ於テハ浴場醫師ノ備ヘモナク申セバ患者ノ氣任カセ勝手次第ニ入浴シテ居ルモノガアリマスノハ誠ニ危険千萬デ御座リマス

凡ソ海水浴ハドシナ病ニデモ宜シイト申ス譯デハナイ前ニモ演ベマシタル如ク或疾病ニハ禁ジナクテハ

ナラヌモノモアリ或ハ温浴ニヨルベク或ハ微温浴ニ
ヨルベク又或症候ニ於テハ一時之ヲ停止シ又ハ入浴
ノ時間度數ヲ變更スル等ノ必要ガ御座リマス其他不
時ノ急症ヲ救濟シ及運動ノ監督、食物ノ視察、睡眠ノ
注意、等迄皆一々醫師ノ指揮又ハ監督ヲ要スル次第
デ御座リマスルカラ海瀕院ニハ是非博識ナル醫師ガ
居ナクテハナリマセヌ

又患者ヲシテ海水浴場ニ於テ入浴セシメマスルニハ
或ハ誤テ溺ル、様ナ危険ガアリテモナラズ又其浴法
及程度モ宜シキニ從ハナクテハナラヌ就テハ游泳術
ニ熟シ且浴法ヲ心得タル浴師ガ必要デアリマス、浴

師ハ醫師ノ指揮ニ從ヒ夫々患者ヲ入浴セシメ患者若
シ海中ニ於テ危険ノ事アルカ又ハ寒戰其他危険ノ症
ヲ發シタル時ハ直チニ浴ヲ出デシメ相當ノ手當ヲナ
スハ勿論其他入浴中患者ノ諸般ノ事狀ニ注意シ不都
合ナカラシムルハ皆浴師ノナスベキ仕事デアリマス
其他ノ職員ニ就テハ別ニ一々演ヘル必要ハナイト考
ヘマスカラ零キマス

(丙) 飲食物、海濱院ハ各種病客ノ麤集スル所デ御座
リマスカラ食物飲料ノ如キモ之ヲ一定スルコトハ素
ヨリ出來マセヌガ都テ難消化ノモノハ之ヲ避ケ消化
シ易キモノヲ準備シ置キ醫師ノ指圖ニヨリテ患者ニ

與ヘナクテハナラヌ

(丁)運動場及散鬱ノ要件、日常ノ操業ヲ一轉シ清淨無垢ノ地ニ於テ適宜ノ運動ヲ致シマス事ハ身体諸部ノ生活機能ヲ旺盛ナラシメ大ニ健康ヲ益スルモノデアリマス就テハ海瀨院ニ於テハ患者ノ心思ヲ舒暢シ健康ヲ保持セシムル爲メニ其近圍ノ地ニ於テ運動娛樂ノ場所ヲ設ケナクテハナラヌ其運動トハ散步、各種ノ遊戲即体操、鞦韆、蹴鞠、擊劍、打球、迷藏坊、捕鬼兒、競走、舞蹈、等ヲ始トシテ騎馬、操舟、(近傍ニ貸舟等ヲ設ケテ可ナリ)ノ如キモ大ニ爽快ヲ執ルニ足ルモノデス併シ其運動ハ醫師ノ監督ニヨリ極メテ適度ヲ超ヘ

ザルコトニ注意シナクテハナラヌ又醫師ハ患者ノ體質ノ強弱病症ノ如何ニヨリ夫々適當ノ運動ヲナサシメノ疲勞ニ至ラザラシムルコトニ注意シナクテハナリマセヌ

此運動場ニハ四時ノ娛樂ニ足ルベキ花卉草木ヲ植ヘ禽獸蟲魚ヲ飼養スル等ノコトモ必要デアリマス又廣キ遊戲室ヲ設ケ雨天ノ際ノ運動場トナシ散鬱消間ノ用ニ供スベキ爲メニハ球突場ヲ置キ又各種遊戲娛樂ノ器具ヲ供ヘ其他各種ノ新聞紙等ヲ備ヘ置クベキ事デアリマス又女子ノ爲メニハ特ニ音曲場ヲ設ケ各種ノ樂器ヲ供

フベキデ御座リマス

其他雜品、玩弄物、寫真等ノ販賣舖ヲ出店セシメ又種々ノ藝人ヲ集メテ其技ヲ演セシムルモ大ニ健康ヲ益スルノ一助トナルモノデ御座リマス

只遊戯娛樂中常ニ注意ヲ要スル事ハ淫行又ハ博戯ノ端緒トナルベキコトデアリマス是ハ極メテ嚴重ニ制止シナクテハナリマセヌ是最モ重要ナル事柄デ御座リマス

浴場之撰擇

海水ノ成分ハ那處デモ大抵同一デ格別ノ差異ハナイモノデ御座リマスガ海水浴場ト致シマスニハ種々ノ

要件ヲ具備シナクテハナリマセヌカラ其位置等ヲ撰擇スルノ必要ガ御座リマス

(甲)位置、大体ヲ申シマスレバ海浴水場ト致シマス地ハ大洋中ノ孤島ニシテ陸地ト隔リタル所ニ設ケマスレバ陸地ノ海濱ニ設ケタルモノヨリモ其効力更ラニ顯著ナルモノデアリマス其故ハ如此處ニ於キマシテハ

第一 空氣が清潔ニシテ濃密且濕潤ニシテ其温度が常ニ均一デアル

第二 海水ハ陸地ノ海濱ニ於ケルガ如ク不潔物ヲ含ムノ虞ナク

第三 海潮ノ乾満甚シクシテ且波動強キガ故ニ之

ヲ陸地海濱ノ弱キ波動ニ比スレバ其効力が
偉大ナルモノデアリマス

併シ時々強風驟雨アル地ノ如キハ素ヨリ避ケナクテ
ハナリマセヌ

(乙)浴場、海水浴場ハ仮令洋中ニ適當ナル島嶼ノ海
濱デ御座リマシテモ其地質ガ岩石ナク細砂ヲ布キタ
ル平斜面ノ地デナクテハ如何ニ氣候ガ善良デモ空浴
ガ清潔デモ素ヨリ浴場ニハ適シマセヌ故ニ浴場ハ氣
候均一北方ニ山又ハ丘アリテ寒風ヲ防キ其海濱ハ清
潔ニシテ白砂ヲ布キ平斜面ヲナシ岩石ノ危険ナク接

續ニテ海瀨院ヲ建設シ得ヘキ地面アル場所ヲ撰バナ
クテハナリマセヌ

序デニ茲デ演ベテ置キマスガ浴場ニハ埒ヲ設ケテ入
浴者ニ危険ナカラシメ而シテ其埒ハ年々新陳取替フベ
キデ御座リマス又浴場ニ瀨シテハ浴客ノ脱衣場ヲ造
ラナクテハナリマセヌ

又温浴ノ爲メニハ特ニ温浴場ヲ要スルハ素ヨリ御
座リマスガ其温浴ハ導水管ヲ以テ温湯冷潮適意ニ得
ラルベキ装置ニ之ヲ作り各一人入浴スル毎ニ其温湯
ヲ新タニシナクテハナリマセヌ但温浴場ハ海瀨院内
ニ設クル方が便利デ御座リマス

海水浴法及其時期

海氣呼吸及海水浴ハ患者ノ病症及其體質ニヨリテ夫々多少ノ差引ヲ要スルモノデ御座リマスカラ其浴法ノ如キハ一概ニ云フコトガ出來マセヌ人々各々海瀨院醫師ノ診斷ヲ受ケテ定メナクテハナラヌ事デアリスカラ今茲ニ演ベマスノハ眞ノ一例大概ニ過ギマセヌ海水浴ヲ行ヒマスニハ初ハ大抵寒クシテ少シク身体ノ戰慄ヲ覺ヘ且動悸ガ急シクナリ呼吸モ短促スルモノデアリマス併シ此不快ナル感覺ハ僅ニ一瞬間ノ事デアリマシテ後直チニ愉快ニシテ且温氣ヲ覺ユルモノデアリマスカラ強テ意トスルニ及ビマセヌサレド

モ特ニ虛弱ナル人等ハ暫ラク海水中ニ於テ浴シツ、アル時非常ニ寒戰悸動ヲ覺ヘ又ハ頭痛眩暈嘔氣ヲ催シ若シクハ四肢倦怠呼吸窘迫等ノ症ヲ發スル事ガアリマス此時ニハ直チニ浴ヲ出デ醫師ノ診察ヲ受ケ其指圖ニ從フベキ事デ御座リマス
新タニ入浴スル人ハ或ハ皮膚ニ赤色ヲ現ハシ又ハ細カキ痒疹ヲ發スルコトガ御座リマスガ之ハ鹽分ノ刺戟ニヨリテ來ルモノデアリマスカラ是亦氣遣ヒニハ及ビマセヌ

(甲)浴期、海水浴ヲ行フベキ時期ハ土地ノ温暖ニヨ

リテ少差ハアリマスレドモ本邦ニテハ大抵七月以前ニ
十月初旬迄ヲ適當ト致シマス然レドモ温浴微温浴等
ノ装置ヲ備ヘタル完全ナル浴場ニ於テハ七月以前ニ
始ムルコトモ出来マスデセウ又九州地方ノ様ナ暖カ
ナ地デハ六月ニ浴スルモ差支ナキ地モ御座リマセウ
ガツマリ之ヲ定メマスニハ其土地ノ空氣ノ温度上海
水ノ温度トが大ナル差ノナイノガ必要デ御座リマス
其差ハ攝氏ノ五度ヲ超ヘテハナリマモ又即チ夏季空
氣ノ温度ト海水ノ温度ガ攝氏五度以上ノ差ノ御座リ
マセヌ時ハ海水浴ヲ行フニ適スルノデアリマス身体
虚弱ノ人ハ殊ニ茲ニ注意ヲ要スルコトデ御座リマス

(乙) 浴法。入浴日數ノ長短ハ人ニヨリテ異ナリマス
カラ一定ハ出来マセヌケレドモ大抵廿五日乃至三十
日ガ通例デ御座リマス併シ是モ醫師ノ指圖ニヨルベ
キ事デ御座リマス

入浴時間モ人ニヨリテ各異ナリマスカラ是亦一定ハ
出来マセヌガ大抵小兒ナレハ一回ノ入浴時間ガ五分
乃至十分婦人ハ十分乃至十五分男子ハ十五分乃至三
十分間ヲ超ヘテハナリマセヌ又入浴ハ初ノ間ハ一日
一回後ニ至リテモ一日二回ヲ以テ極度ト致シマス
入浴ハ毎日午前八時乃至十一時ヲ良シト致シマス
但虚弱者又ハ神經性ノ婦人等ニハ午後四時頃ヲ良

ト致シマス

日中極熱ノ時ハ入浴シテハナリマセヌ

食後一時間ヲ經ヌ間ハ入浴シテハナリマセヌ

入浴前ハ疲倦スベキ過度ノ勞動又ハ汗ヲ發セシメテ

ハナリマセヌ可成的氣分ヲ靜メテ後入浴スベキ事

デアリマス

入浴シテハ初メ靜カニ全身ヲ海水中ニ沈ヅメ後漸次

運動スベキデアリマス

浴ヲ出タル時ハ西洋手拭ヲ以テ強ク全身ヲ摩擦シ

微紅ヲ呈スル迄ニシテ後着服スルガヨロシクアリ

マス決シテ其儘乾カシテハナリマセヌ

入浴中腹ノ軟部透冷シテ異狀ノ感覺ヲ發シ快カラザ

ルコトガ時トシテハ或ハアリマス此時ハ直チニ出

テ、強ク腹部ヲ摩擦スレバ速カニ治スルモノデア

座リマス

又強壯ナル人ハ浴後更ラニ冷カナル常水ノ雨浴若ク

ハ傾瀉浴ヲ行ヒ後チ全身ヲ摩擦スルガ宜シクアリ

マス此浴後ノ常水冷浴ハ大ニ神経系ニ効ヲ奏スル

モノデア座リマス

浴後三十分乃至一時間ハ務メテ散歩シテハナリ

マセヌ併シ散歩モ久シキニ過ギ又ハ嶮岨ヲ攀チ又ハ

疲勞ヲ覺ユル等ノコトガアリテハナリマセヌ

(丙)海氣呼吸、海濱ニアリテハカメテ深ク呼吸ス可
キコトデアリマス尋常ノ呼吸ハ淺クシテ空氣充分ニ
肺中ニ達シマセヌ故可成的深ク海氣ヲ吸ヒ込ミ一二
秒時間之ヲ保チ後チ力ヲ加ヘテ呼キ出ス之ヲ肺ノ選
動法ト申シテ腺病貧血諸病胃及腸ノ慢性加苔兒等ハ
コレニヨリテ偉効ヲ奏スルモノデアリマス如此呼吸
スルコト凡十回ニシテ五分間位休ミ後チ又是チ行フ
コト日々何回トナク可成的數回コレヲ反復スルガ宜
シクアリマス海水浴モ海氣呼吸ヲ重シナクテハ其効
甚ダ少ナキモノニテ海氣ノ効能ハ己ニ前ニモ演ヘマ
シタル通りデアリマスカラ此邊篤ク注意アリタキ事

テ御座リマス

結 論

終ニ臨ンデ一言致シマスガ上來演ベマシタルハ海水
浴ニ就テ大体ノ標準ヲ御話シ申シマシタルニ過ギマ
セヌ其實地ニ就テハ地方々々ノ狀況ニヨリ本論ヲ斟
酌シ實地活用ノ便ヲ執ラバ大資本ヲ投セズシテ適法
ノ浴場ヲ設ケ得ル事ハ甚ダ難事デアハ御座リマセヌ我
帝國ハ元來島嶼ニ富ミタル國ニシテ從テ浴場ニ適ス
ル地モ亦多キハ素ヨリテ御座リ升ガ就中我廣島縣下
ノ如キ海岸線ノ長キ地ニ於テハ浴場ニ適スベキ場所
ハ之ヲ見出スニ困難ハ御座リマスマイ殊ニ當地ニ知

キ已ニ其場所が見出ダサレ不完全ナガラモ浴場ノ御座リマス地ニ於テハ素ヨリノ事デ御座リマス併シ海瀨院ノ設ケモ急ニハ其完全ヲ望ミマス事ハ六ヶ敷イデ御座リマセウカラ初メハ患者浴客ノ合宿所様ノモノナリトモ御設ケニナリ又海瀨院醫員モ晝夜専任スルコトハ六ヶ敷イデアリマセウカラ近傍ニ稍達識ナル開業醫ガ御座リマスレバ之レニ少シク礦泉學ニモ注意シテ貫ツテ浴客ノ診察ヲ囑托シ置カレ度キ事デ御座リマス併シ合宿所ノ主幹及其召使男女等ハ可成海水浴法及看病學ノ大意ヲ心得タルモノデ患者及浴客ニ對シテハ總テ醫師ノ指圖ヲ守ラナクテハナリマ

セ又此ノ如クニシテ漸次ニ完全ヲ望ミツ、行キマシタラ世人ガ海水浴ノ効能海氣呼吸ノ有益ナル事ヲ知ルコト從テ浴客モ漸々輻湊スルニ至リ終ニハノルデルナイ海瀨院ニモ劣ラヌモノガ出來得ル事デアラウト存ジマス何卒當地ノ浴場ノ如キモ上ニ演ベマシタル標準ヲ目的トシテ今少シ改良ノ方針ヲ執ラレノヲテ希ヒマス

海水浴終

明治廿六年七月三日印刷

同 年同月十日發行

著作
兼發行人

印刷者

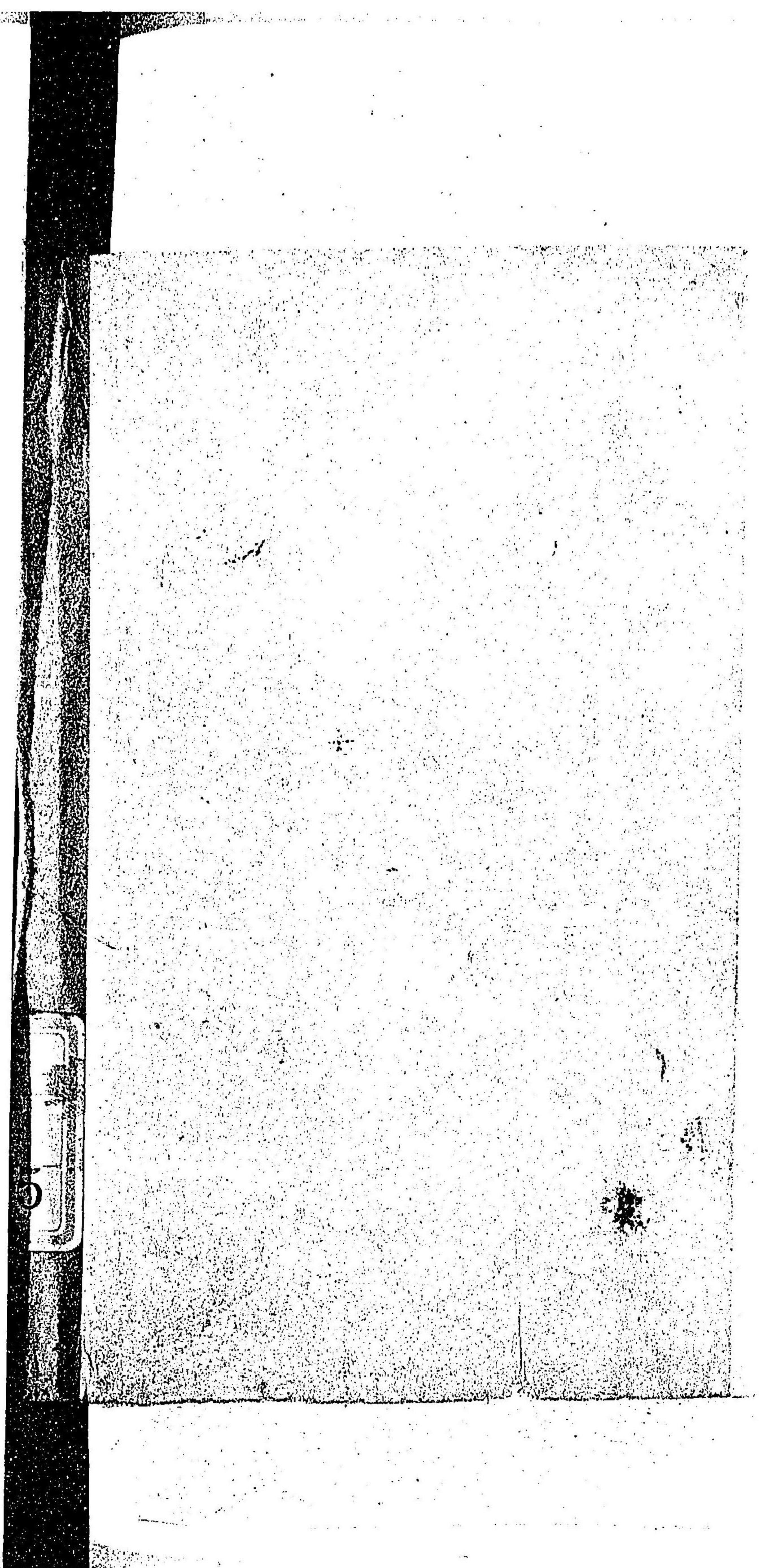
(不賣品)

天 野 雨 石

廣島縣廣島市水主
町百三十六番邸

山 中 彌 兵 衛

廣島縣廣島市堺町
三丁目四十八番邸



海水浴

醫學士 匹田復次郎君 閱

完

060417-000-1

特65-925

海水浴

天野 雨石 / 著

M26

CBM-0246

